

AIIT におけるプロジェクト型学修 (PBL) のための Backlog システムの導入

中鉢 欣秀^{1,a)} 小山 裕司¹

概要: 本稿は, 情報処理学会論文誌ジャーナルに投稿する原稿を執筆する際, および論文採択後に最終原稿を準備する際の注意点等をまとめたものである. 大きく分けると, 論文投稿の流れと, $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ と専用のスタイルファイルを用いた場合の論文フォーマットに関する指針, および論文の内容に関してすべきこと, すべきでないことをまとめたべからずチェックリストからなる. 本稿自体も $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ と専用のスタイルファイルを用いて執筆されているため, 論文執筆の際に参考になれば幸いである.



図 1 AIIT における Backlog の利用画面



図 2 プロジェクトでのファイル共有

1. はじめに

産業技術大学院大学 (Advanced Institute of Industrial Technology) では, 高度な職業人材を育成するために必要となる学修のための情報インフラストラクチャを提供している.

本学では, 実践的な業務遂行能力を育成する狙いで 1 年間のプロジェクト型学修を必修とし, すべての学生が修士課程の 2 年次にプロジェクト活動を行なっている.

この PBL を実施するために, グループウェアを導入している

参考文献

¹ 産業技術大学院大学
AIIT, Shinagawa, Tokyo 140-0011, Japan
^{a)} yc@aait.ac.jp



図 3 Git によるソースコード管理



図 4 課題の管理画面



図 5 Wiki による議事録の作成



図 6 Wiki の利用例